

# 個別最適な学びと協働的な学びの 一体的な充実に向けた学校教育の 在り方について

## 資料 2 - 2

令和4年10月3日 中央教育審議会初等中等教育分科会  
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた  
学校教育の在り方に関する特別部会

# 育成すべき資質・能力の三つの柱



学習する子供の視点に立ち、育成を目指す資質・能力の要素を三つの柱で整理。

学びに向かう力，人間性等

どのように社会・世界と関わり，  
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を  
総合的にとらえて構造化

何を理解しているか  
何ができるか

知識及び技能

理解していること・できる  
ことをどう使うか

思考力，判断力，表現力等

【参考】学校教育法第30条第2項

生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

## 子供たちに求められる資質・能力（令和答申抜粋）



次代を切り拓く子供たちに求められる資質・能力としては、**文章の意味を正確に理解する読解力、教科等固有の見方・考え方を働かせて自分の頭で考えて表現する力、対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力**などが挙げられた。



また、**豊かな情操や規範意識、自他の生命の尊重、自己肯定感・自己有用感、他者への思いやり、対面でのコミュニケーションを通じて人間関係を築く力、困難を乗り越え、ものごとを成し遂げる力、公共の精神**の育成等を図るとともに、子供の頃から各教育段階に応じて**体力の向上、健康の確保**を図ることなどは、どのような時代であっても変わらず重要である。



国際的な動向をみると、（略）自然環境や資源の有限性、貧困、イノベーションなど、**地域や地球規模の諸課題について、子供一人一人が自らの課題として考え、持続可能な社会づくりにつなげていく力を育むことが求められている。**



また、経済協力開発機構（OECD）では子供たちが2030年以降も活躍するために必要な資質・能力について検討を行い、令和元（2019）年5月に“Learning Compass 2030”を発表しているが、この中で子供たちが**ウェルビーイング（Well-being）を実現していくために自ら主体的に目標を設定し、振り返りながら、責任ある行動がとれる力**を身に付けることの重要性が指摘されている。

## 学校教育の意義（令和答申抜粋）



日本の学校教育はこれまで、学習機会と学力を保障するという役割のみならず、**全人的な発達・成長を保障する役割**や、人と安全・安心につながる**ことができる居場所・セーフティネット**として**身体的、精神的な健康を保障するという福祉的な役割**も担っていることが再認識された。

特に、全人格的な発達・成長の保障、居場所・セーフティネットとしての福祉的な役割は、**日本型学校教育の強み**であることに留意する必要がある。



日本型学校教育が、世界に誇るべき成果を挙げてくることができたのは、子供たちの学びに対する意欲や関心、学習習慣等によるものだけでなく、**子供のためであればと頑張る教師の献身的な努力**によるものである。

教育は人なりと言われるように、我が国の将来を担う子供たちの教育は教師にかかっている。

しかしながら、学校の役割が過度に拡大していくとともに、直面する様々な課題に対応するため、教師は教育に携わる喜びを持ちつつも疲弊しており、**国において抜本的な対応を行うことなく日本型学校教育を維持していくことは困難**であると言わざるを得ない。



学校は、**すべての子供たちが安心して楽しく通える魅力ある環境であることや、これまで以上に福祉的な役割や子供たちの居場所としての機能を担うことが求められている**。家庭の社会経済的な背景や、障害の状態や特性及び心身の発達の段階、学習や生活の基盤となる日本語の能力、一人一人のキャリア形成など、**子供の発達や学習を取り巻く個別の教育的ニーズを把握し、様々な課題を乗り越え、一人一人の可能性を伸ばしていくことが課題**となっている。

# 日本の教育に対する国際的な評価（OECDレポート）

長年にわたる国際比較評価でも示されているように、日本の教育制度は高い成果を生み出しています。

2015年OECD生徒の学習到達度調査（PISA）では、日本の15歳の生徒が科学、数学、読解力で上位10%に入っています。

日本の教育制度は高い成果

上位**10%**

2015年OECD生徒の学習到達度調査（PISA）  
日本の15歳の生徒が科学、数学、読解力で上位10%に入っている

日本の教育制度の成功を語る上でひとつきわめて重要な特徴が、子供たちに非常に包括的（全人的）な教育を効果的に行っているということです。

（略）

この独特なモデルが、日本の教育制度の全側面を基盤として一体となって機能しているのです。

日本の教育制度の特徴

包括的（全人的）な教育を  
効果的に行っている



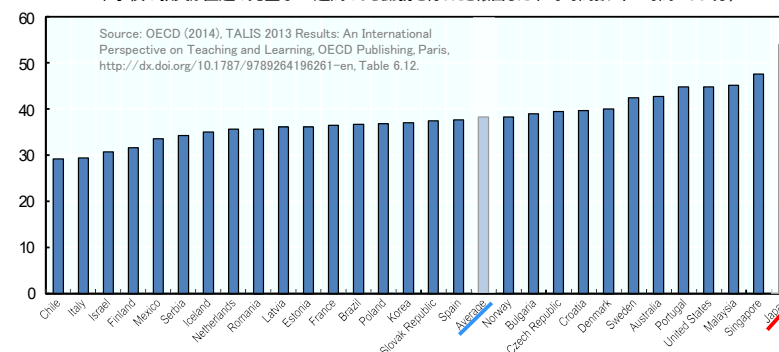
日本モデルが基盤として一体となって機能している。

しかし、このシステムの代償として、教員に極度の長時間労働と高度な責任があり、それによって教員は研修を受け、新学習指導要領に適応することを困難にしています。（略）

しかしながら、日本の教員が生徒たちに対して有する広範な任務・責任は、日本の教育制度を成功に導いている重要要素のひとつである（略）。

教員の勤務時間

中学校の教員が直近の完全な1週間のうち勤務を行ったと報告した平均時間数（1時間=60分）

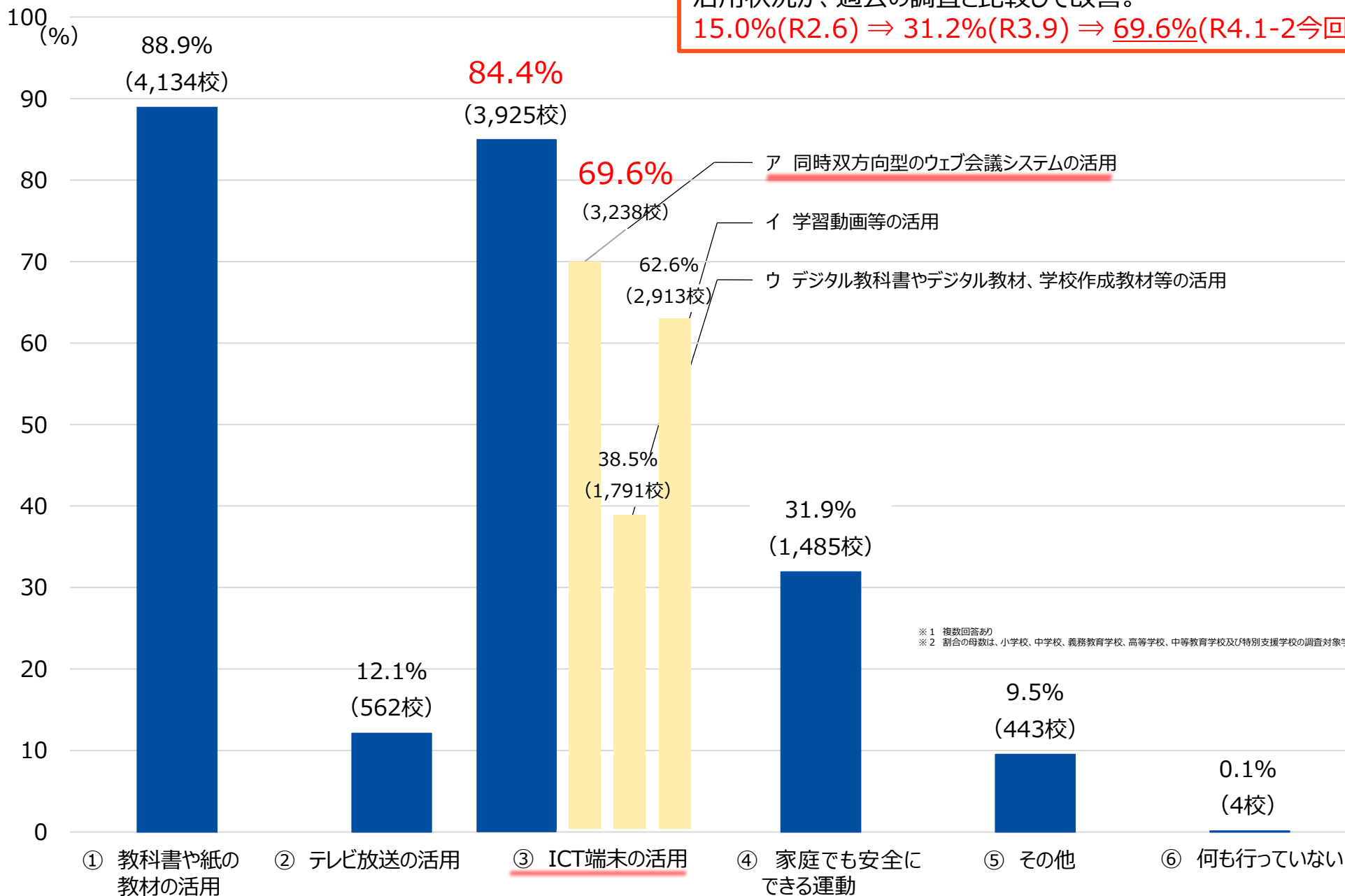


# 臨時休業期間中の学習指導等に関する文部科学省調査（概要）

小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校

調査対象期間 令和4年1月11日（火）～2月16日（水）

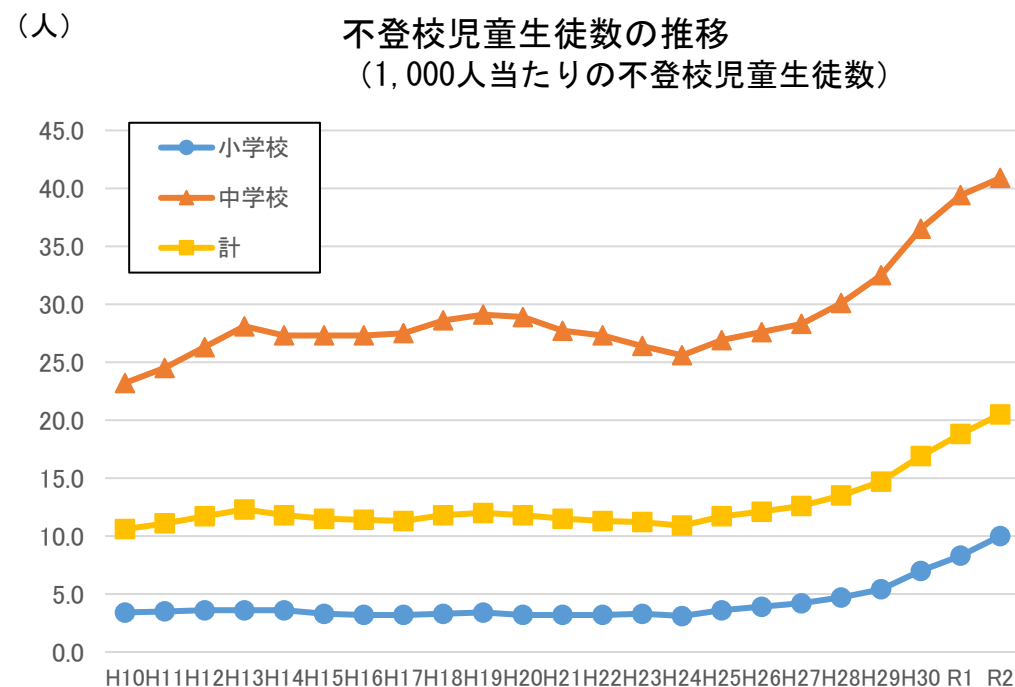
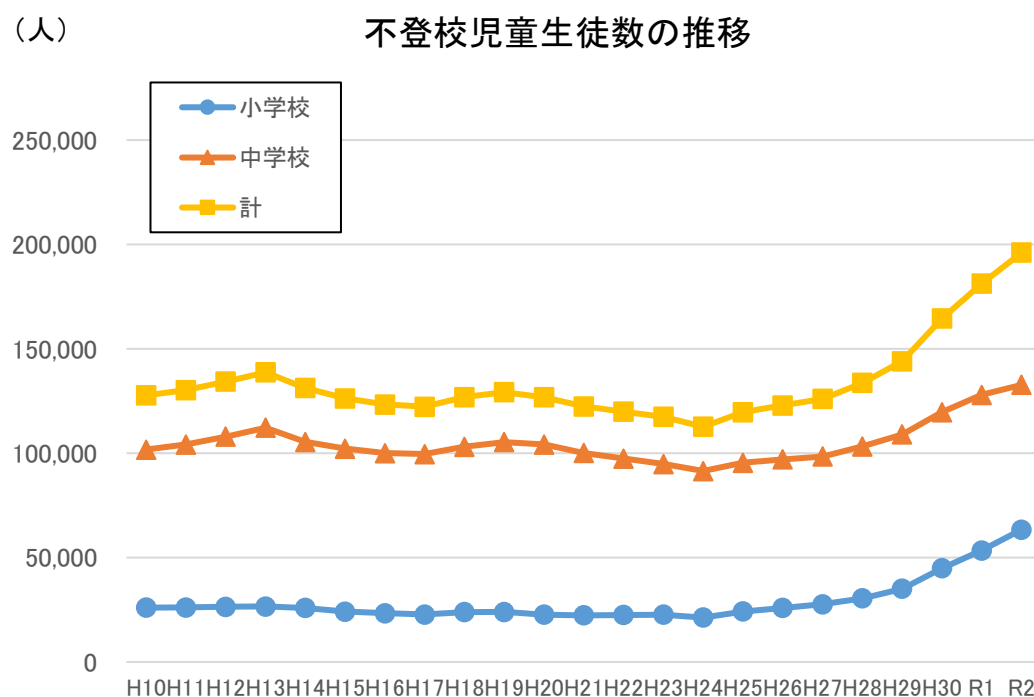
臨時休業期間中の同時双方向型のウェブ会議システムの活用状況が、過去の調査と比較して改善。  
 15.0%(R2.6) ⇒ 31.2%(R3.9) ⇒ **69.6%(R4.1-2今回調査)**



※1 複数回答あり  
 ※2 割合の母数は、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の調査対象学校数の合計

# 小・中学校における不登校の状況について

小・中学校における長期欠席者のうち、不登校児童生徒数は196,127人（前年度181,272人）であり、児童生徒1,000人当たりの不登校児童生徒数は20.5人（前年度18.8人）。不登校児童生徒数は8年連続で増加し、過去最多となっている。



## 不登校児童生徒数(上段)と1,000人当たりの不登校児童生徒数(下段)

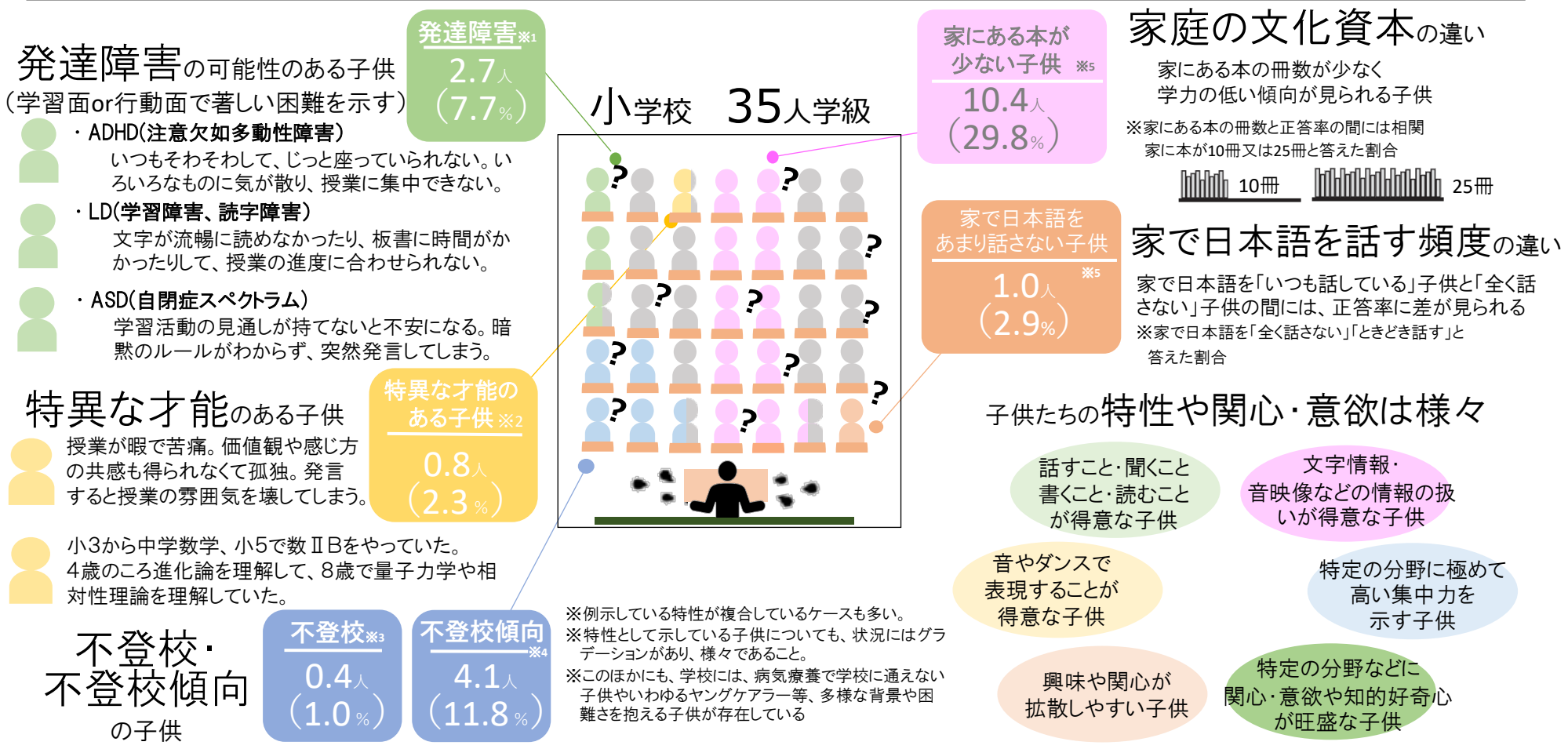
	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
小学校	26,017	26,047	26,373	26,511	25,869	24,077	23,318	22,709	23,825	23,927	22,652	22,327	22,463	22,622	21,243	24,175	25,864	27,583	30,448	35,032	44,841	53,350	63,350
	3.4	3.5	3.6	3.6	3.6	3.3	3.2	3.2	3.3	3.4	3.2	3.2	3.2	3.3	3.1	3.6	3.9	4.2	4.7	5.4	7.0	8.3	10.0
中学校	101,675	104,180	107,913	112,211	105,383	102,149	100,040	99,578	103,069	105,328	104,153	100,105	97,428	94,836	91,446	95,442	97,033	98,408	103,235	108,999	119,687	127,922	132,777
	23.2	24.5	26.3	28.1	27.3	27.3	27.3	27.5	28.6	29.1	28.9	27.7	27.3	26.4	25.6	26.9	27.6	28.3	30.1	32.5	36.5	39.4	40.9
計	127,692	130,227	134,286	138,722	131,252	126,226	123,358	122,287	126,894	129,255	126,805	122,432	119,891	117,458	112,689	119,617	122,897	125,991	133,683	144,031	164,528	181,272	196,127
	10.6	11.1	11.7	12.3	11.8	11.5	11.4	11.3	11.8	12.0	11.8	11.5	11.3	11.2	10.9	11.7	12.1	12.6	13.5	14.7	16.9	18.8	20.5

※平成10年度調査より不登校児童生徒として調査を行っている。



1. 社会構造と子供たちを取り巻く環境の変化  
 (3) 認識すべき教室の中にある多様性・子供目線の重要性(小学校のイメージ:一例)

すべての子供たちの可能性を最大限引き出す教育が求められている中、教室には、発達障害や特異な才能、家で日本語を話す頻度が少ない子供、家庭の文化資本の差による学力差等、学級には様々な特性を持つ子供が存在し、これらの特性が複合しているケースもある。同学年による同年齢の集団は、同調圧力が働きやすく、学校に馴染めず苦しむ子供も一定数存在し、不登校・不登校傾向の子供は年々増加の一途をたどっている。さらには、一斉授業スタイルでは、一定の学力層に焦点を当てざるを得ず、結果として、いわゆる「浮きこぼれ」「落ちこぼれ」双方を救えていない現状。また、困難を抱えていても、一見困難に直面しているように見えず見過ごされてしまう場合がある。このように、子供たちが多様化する中で、教師一人による紙ベースの一斉授業スタイルは限界に来ている。



【出典】※1 通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果 平成24年12月 (文部科学省) 「2.7人(7.7%)」の数字は、ADHD、LD、ASDの内訳を示したものではない。発達障害の記載は、日野公三著『発達障害の子どもの進路と多様な可能性』(WAVE出版、2018年)を参考に内閣府で作成。  
 ※2 日本には定義がないため、IQ130以上を仮定し、知能指数のベルカーブの正規分布を元に算出。子供の吹き出しは、文部科学省 特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における指導・支援の在り方に関する有識者会議アンケートを参考に編集。  
 ※3 不登校 年間に連続又は断続して30日以上欠席 (令和2年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査(文部科学省))  
 ※4 不登校傾向 年間欠席数30日未満、部分登校、保健室登校、「基本的には教室で過ごし、皆と同じことをしているが、心の中では学校に通いたくない・学校が辛い・嫌だと感じている」場合など含む (不登校傾向にある子どもの実態調査(日本財団))  
 ※5 令和3年度 全国学力・学習状況調査 児童質問紙、生徒質問紙結果より内閣府において作成。全国平均値等を1クラスに仮に見立てた場合のイメージ図。実際には偏在等は生じている可能性が有る旨留意。  
 児童生徒質問紙内容: あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか。(家にある本の冊数は、家庭の社会経済的背景を表す代替指標の1つ)  
 児童生徒質問紙内容: あなたは、家でどれくらい日本語を話しますか。(家で日本語を話す頻度の状況を確認するための質問事項)





今後、教室、クラスの在り方やスタイルは多様化していくべきだと思います。  
オンラインもオフラインも違う意味で得るものがありました。

学びのスタイルを自分自身でデザインしていくのが当たり前の、ある意味オールオッケーなクラスができてほしいです!!



自由を求められたり、自分の個性を生かしたり、他の人と違うことをやったりすることを強制させられるのは苦しいと思う人もいるのではないかなと思います。

自分の個性を見つけ出してそれを活かすために何か実践しないといけないという社会になるのは辛いんじゃないかなと思います。

特に精神的に不安定である中高生という時期にさらに不安や葛藤、周りと比べたときの劣等感に悩まされるようなこういった状況で生活するのは危険じゃないかなと思います。



被教育者目線としては**対面の授業の場を貴重な機会として大事にしてほしい**と思った。  
オンライン授業の経験を通し、やはり対面で授業を受けて議論し合う機会が必要だと感じた。

オンライン上では議論することはできても、何か熱の入った議論がしにくいと思う。

だからこそ、デジタルの力を適材適所利用しつつも、対面の機会を活用するシステムの構築をお願いしたい。



一つの教室にクラス全員が集まって授業を受ける意味は、今コロナ禍においても言えることだと思っています。

(略)

色んな人の色々な意見、個性、特徴、顔色、すべてを肌で感じる環境だからこそ、大変なこともあるけど集団としての成長や得るものの大きさはやはり何にも変えられないなと去年感じました。



**授業を構成するのは生徒であり、生徒が授業を進めていくという感覚を持たせることが必要だ。**

(略)

生徒自体が授業を進めていくことによって、教師が気づかなかったことも生まれるだろうし、多様性を担保しながら互いに能力を伸ばし合うことが可能となる。この中で、**教師は授業が過度に関係のないトピックに集中しないかを監視し、時には方向性を修正するサポーターとしての役割を果たすべき**である。



**「好き」や「夢中」を見つけるためには、様々なものに本気で触れてみるのが大切だと思います。**

(略)

学校などの取り組みで様々なものに触れる機会があってもサラッと触れる程度では何の意味もなく、「何か思っていたのと違った…」で終わります。



「個別最適な学び」にとって重要なのは「自分で自分の学びの目的やペースを自分で試行錯誤しながら見定めること」とありますが、実際には生徒がこのような試行錯誤を行っていくことは難しいと思います。

自分は高校生ですが、そのような試行錯誤を急にやってくれと言われても何も思いつかないし、他にもこのような状況の高校生は多数いると思います。従って、**大人たちが生徒たちに試行錯誤の方法を教える機会が必要だ**と考えます。



僕はもう小学校4年生です。

**今の学校で皆一斉に同じ事を同じようにする事を求められるのが苦痛です。**

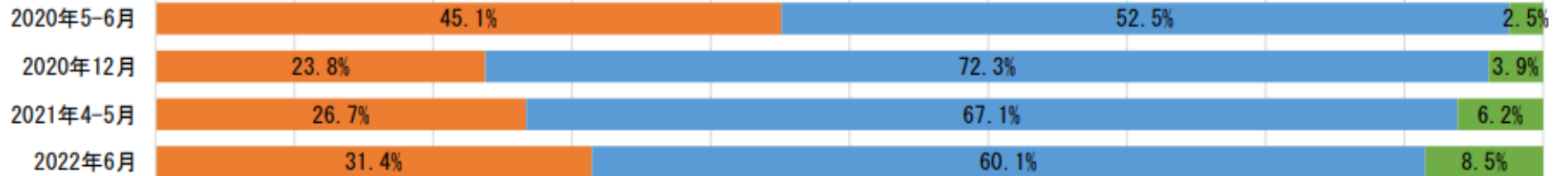
一刻も早く変わってほしいです。

いきなり全部変わるのは無理でも、ほんの少しでも新しい要素が入れば毎日がもっと楽しくなると思っています。

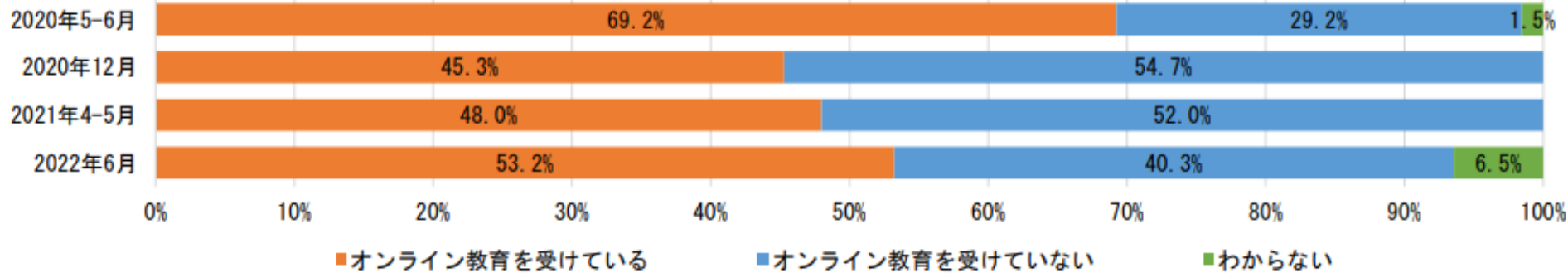
# オンライン教育に関する小・中学生の保護者に対するアンケート結果

## オンライン教育の実施状況

### <全国>



### <東京都23区>



## オンライン教育の利用希望（2022年6月）

### <全国>



### <東京都23区>



- オンライン教育中心（50%以上）で、対面教育を併用
- 基本的に対面教育だが、不定期にオンライン教育を利用
- わからない
- 対面教育中心（50%以上）で、オンライン教育を併用
- 完全に対面教育

# 特異な才能のある児童生徒・保護者等に対するアンケート結果

## 本人の回答



### レベルが合わない

・教科書の内容はすべて理解していたが、自分のレベルに合わせた勉強をすることはまったく許されなかった。周囲に合わせると叱られ、授業中は常に暇を持て余していた。



### 教材が合わない

・いわゆる2E状態で、鉛筆をもって字を書く速度の遅さと、脳内での処理速度の速さが釣り合わず、プリントでの学習にストレスを感じていた。



### 話が合わない

・同級生との話がかみ合わず、大人と話している方が良い。あまり周りに理解してもらえない。友達に変わっている子扱いされる。学校に行く時間を自分の好きなことの時間にしたい。

## 保護者等の回答



### レベルが合わない

・授業の内容がすぐに理解できてしまいその先への興味が先行するが、満足できる知識は提供されず退屈してしまう。できない人へ教えるなどの機会は得られるが、知的好奇心は満たされず、集団での行動がつまらない、自分はできない、と自己肯定感が下がる経験を日常的にしられる。



### 教師と合わない

・教師も、授業を重ねるたびに無気力かつ反動的になってくる子供に対し、怒りを感じ問題児扱いし、授業態度を叱責する。



### 楽しかったクラスもあった

・正しい答えだけでなく、「何故、そのように考えるのか」、考え方を発表させてくれた先生のクラスは非常に楽しかったと申しあげました。

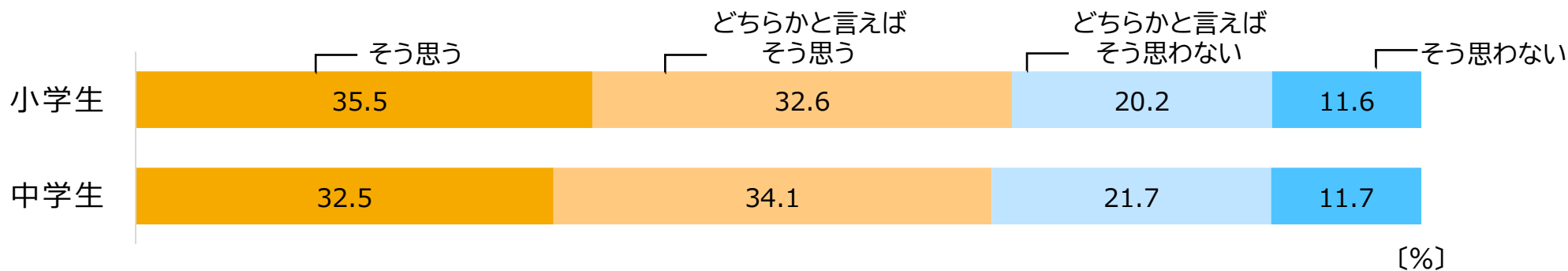


### 【係】で自己評価上がった

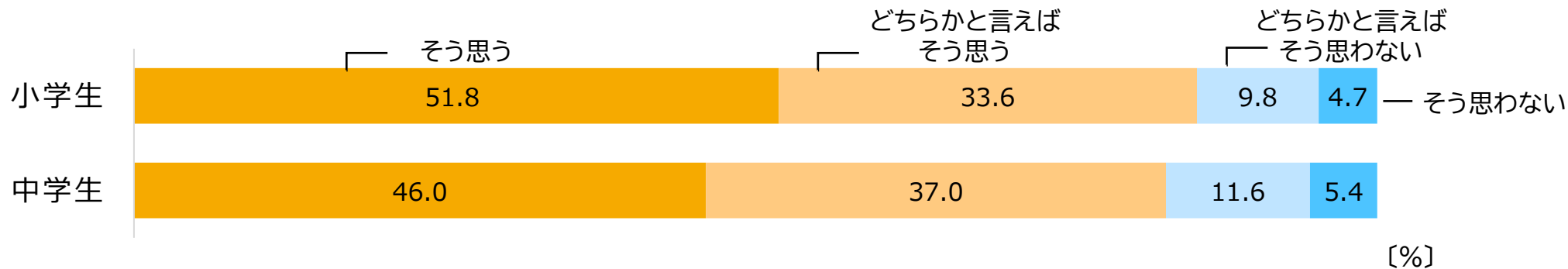
・学校では学級に「係」制度があり、自分の好きなことを利用してクラスのために貢献することができる。想像力や協働力を強制的ではない形で発揮させてくれ、課外であるため、自由度も高く、肯定的に評価されることも多く、本人の自己評価にも役立っている。

# 学校の意義や役割について

## 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか

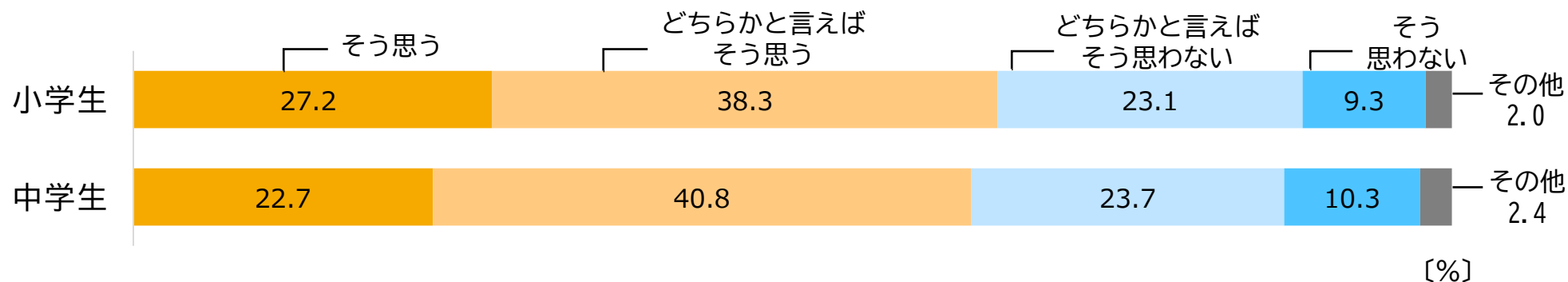


## 学校に行くのは楽しいと思いますか

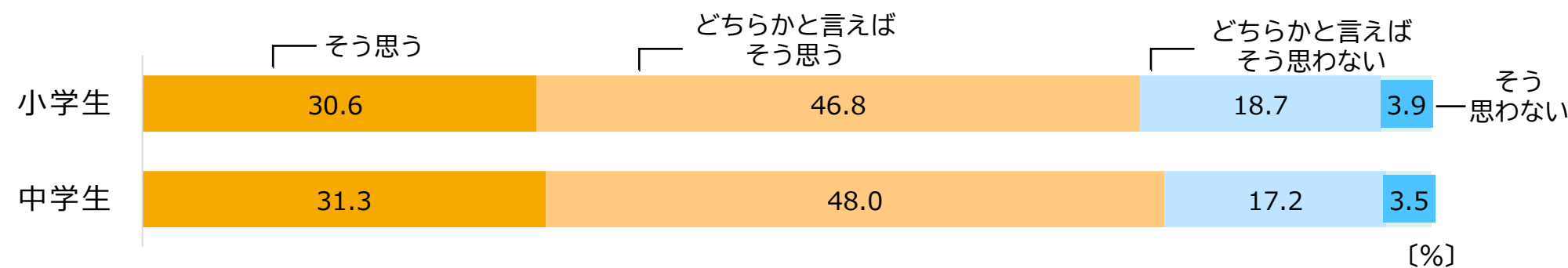


# 授業での取組について

5年生まで〔1, 2年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか



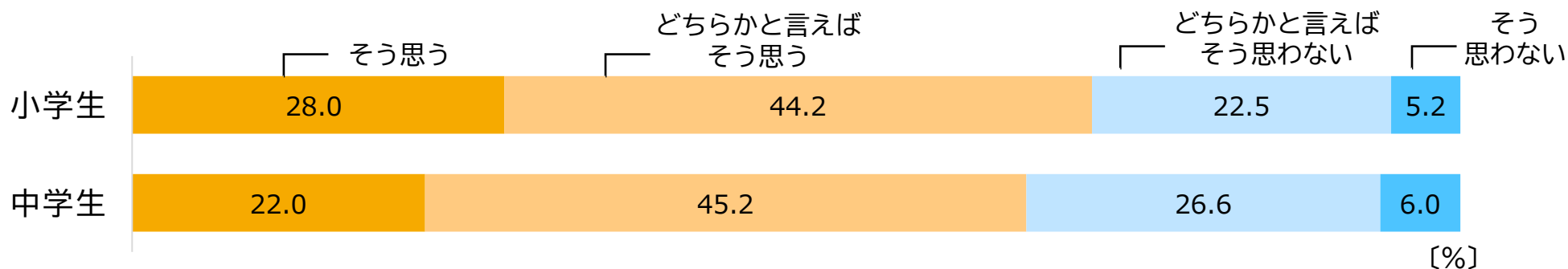
5年生まで〔1, 2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



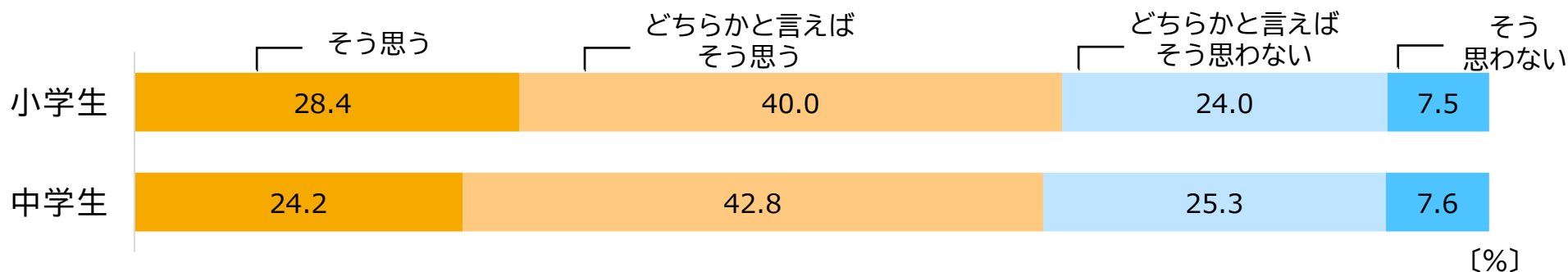


## 授業での取組について

5年生まで〔1, 2年生のとき〕に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか

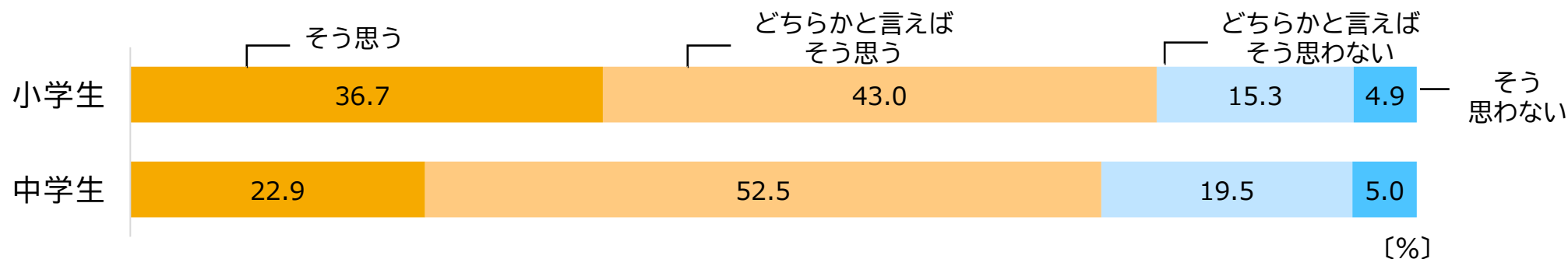


5年生まで〔1, 2年生のとき〕に受けた授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていましたか

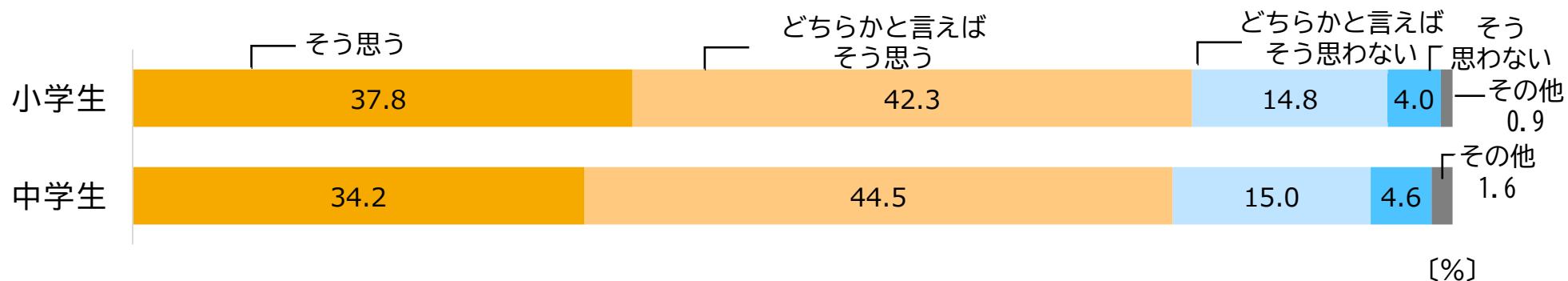


## 個別最適な学び・協働的な学びについて

5年生まで〔1, 2年生のとき〕に受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか

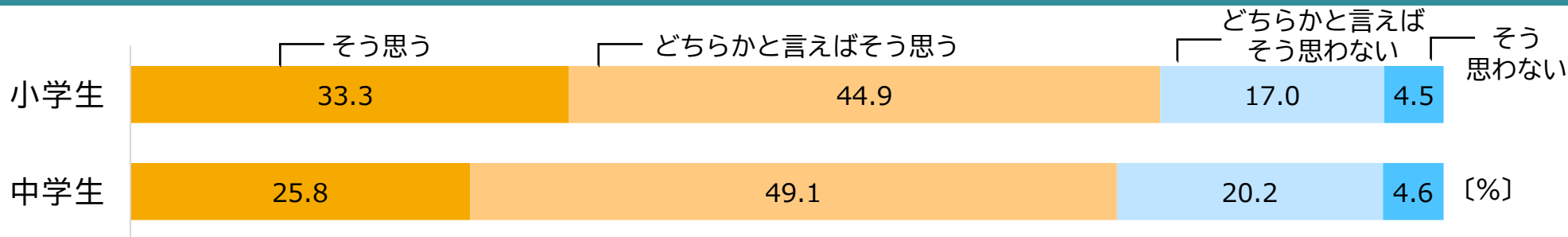


学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか

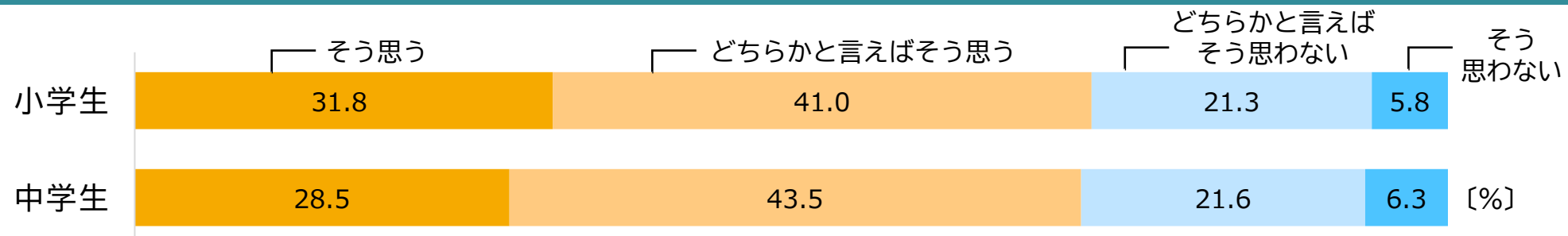


# 教科以外での学びについて

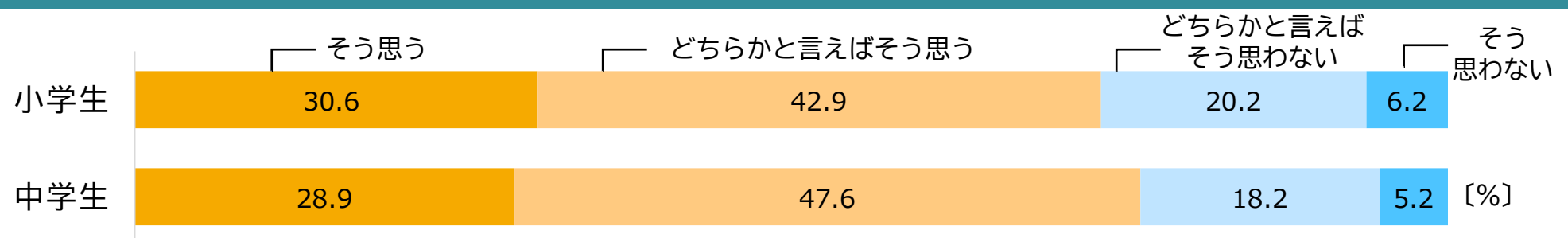
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか



総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか

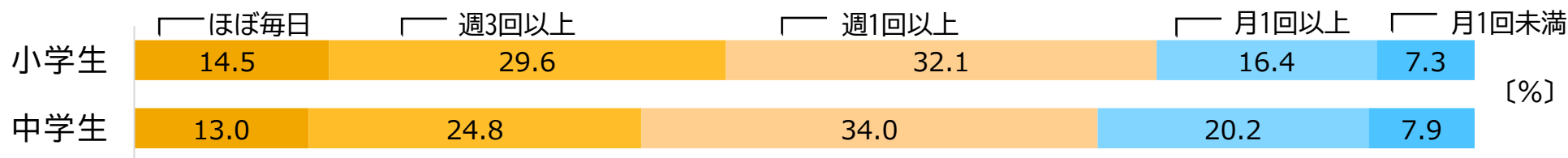


あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか

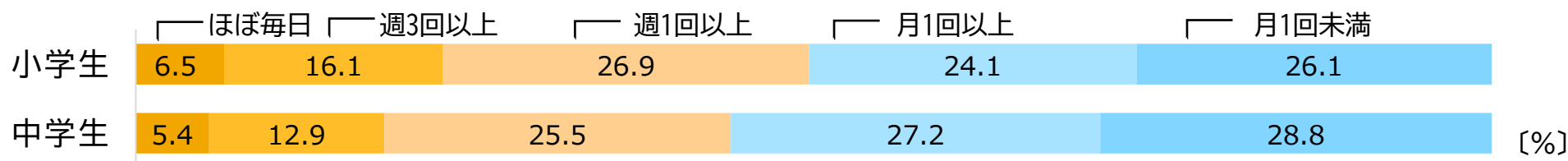


# ICTを活用した学びについて

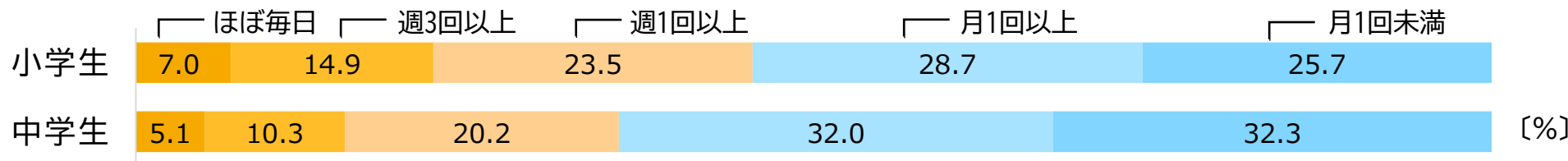
学校で、授業中に自分で調べる場面で、P C・タブレットなどのI C T機器を、どの程度使っていますか（インターネット検索など）



学校で、学校の友達と意見を交換する場面で、P C・タブレットなどのI C T機器を、どの程度使っていますか



学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、P C・タブレットなどのI C T機器を、どの程度使っていますか



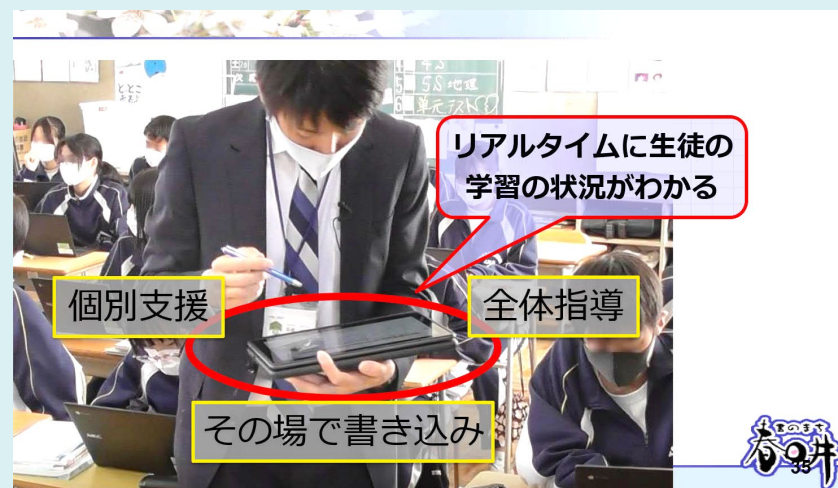
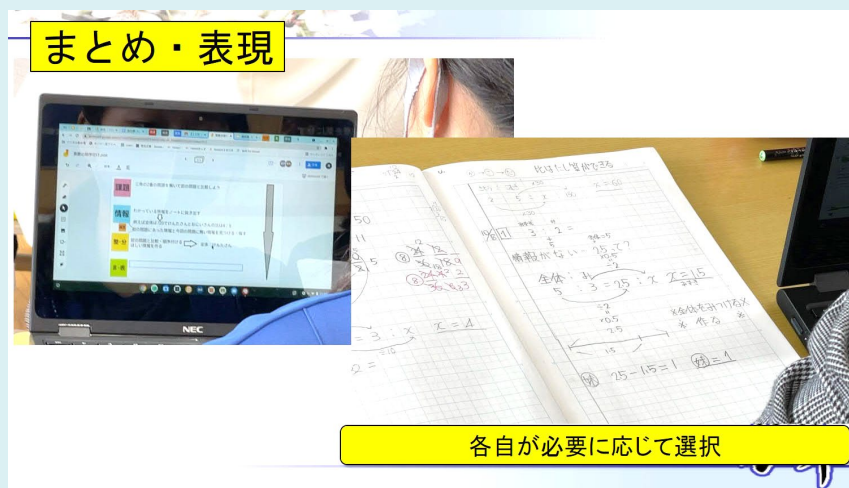
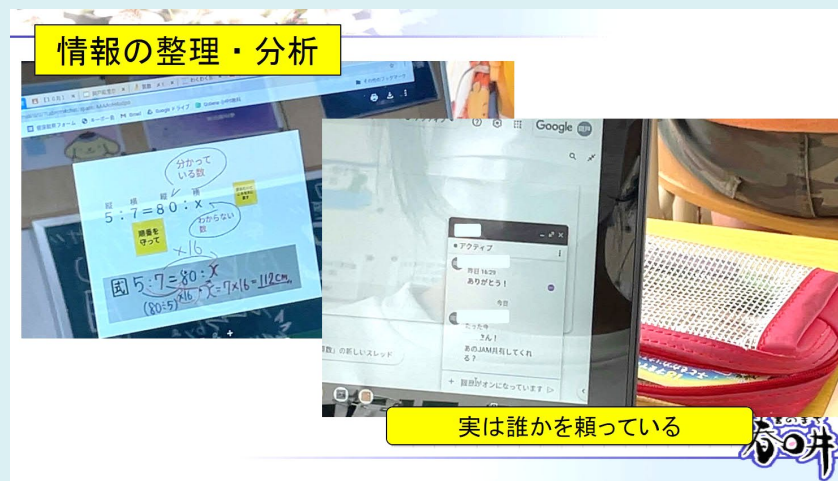
学習の中でP C・タブレットなどのI C T機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか



# 自治体での先進的な取組

春日井市立  
藤山台小学校・  
高森台中学校  
(愛知県春日井市)

## GIGA環境整備後の日常の授業の状況



【教科書・教材・ソフトウェアの在り方ワーキンググループ(第1回)(令和4年3月23日)資料5-1 水谷委員御提出資料より抜粋】



# 自治体での先進的な取組

## 天童市立 天童中部小学校 (山形県天童市)

### MP (マイプラン) 学習

～単元内自由進度学習～

- ◎学習方法を子供たちが決める
- ・自らの判断と責任で自由に

### FSP (フリースタイルプロジェクト)

～個人総合、個人研究～

- ◎学習方法に加えて、学習内容も子どもたちが決める・相談して進める

学習の「発展学習」  
～6年社会科「歴史ワールド」～

「江戸の町のジオラマ」から芝居小屋

法隆寺

江戸城

思った場所  
で学べ

◎取組みの枠組み

- 教育課程上の位置づけ(対象教科や時間数等)
  - ・総合的な学習の時間として実施
  - ・特別支援学級を含め、4年以上で実施
  - ・一回20時間で年2回(年間40時間)
- 教材や学習内容
  - ・担任と相談しながら、子どもたち一人一人が課題を設定
  - ・必要な材料・道具等は基本的に個人がすべて準備
- 指導体制
  - ・各学年の担任(活動中は、担任も自分のテーマに取組む)...活動は学年・学級オープン
  - ・場所の担当を決め、そこで活動する子どもたちを見守る(危険回避や求めに応じる)
  - ・子どもたちと教員側で実行委員会を作り、その合同会議によって活動内容を検討
- 活動場所
  - ・課題や探究プロセスに応じて、活動場所を自分で確保

自分でも  
気付かなかった  
自分に出会う

「集団」の中で  
「個」で学ぶ

仲間と共に学ぶからこそ、  
自分らしく学ぶことができる

自分の  
得意や興味関心  
に基づいて

気になったことを  
探究し続ける



## 広島県教育委員会 登校支援センター (広島県)

# 不登校SSR(スペシャルサポートルーム) 推進校への支援

不登校SSR推進校への支援

**(1) SSRの運営**

① 環境整備

**ポイント1**  
学校らしく見えない教室を目指しましょう!

**ポイント2**  
校内で入室しやすい場所を選定し、動線を確保しましょう!

**ポイント3**  
個別の学習、協働での学習の両立が可能なレイアウトを工夫しましょう!

ソファを置いたり、机にテーブルクロスをかけたリ、カラフルな色を使ったイスを使うなど、学校らしく見えない教室を目指しています。

個別の学習と協働での学習の両立が可能なレイアウトを工夫しています。

周りの視線を気にすることなく入室できる場所へSSRを設置したり、SSR用のくつ箱を準備したりしています。

不登校SSR推進校への支援

**(1) SSRの運営サポート**

③ 学習支援(個別・集団)

**ポイント1**  
児童生徒の興味・関心を生かした学び

**ポイント2**  
児童生徒が相互に学び合う場の設定

**ポイント3**  
振り返りと教職員からの声掛け

**ポイント1**  
児童生徒の興味・関心を生かした学び

自分たちが興味・関心のあることについて、それぞれが調べ、自分なりの工夫をしてみよう。また、SSR個展として、先生方を招待し、調べたことの発表会を開催しました。先生方からは、たくさんの「いいね」の評価をもらいました。

**ポイント2**  
児童生徒が相互に学び合う場の設定

児童生徒が相互に教え合う活動や関わり合い、協力が必要となる体験活動などを取り入れ、相互に認め合うことができるより人間関係を築いています。また、様々な体験により、自分が何に興味・関心があるのかに気づき、学びを広げていってほしいと考えています。

不登校SSR推進校への支援

**(1) SSRの運営サポート**

③ 学習支援(個別・集団)

月	オンライン学びプログラム	オンラインクラブ活動
7月	<p>「MADE IN ○○」 身の回りにある世界の国々でできたものを紹介します。 どんな国が好きかな? 絵画・写真・動画ありです。</p> <p>7月6日(水) 10:45~11:30, 7月15日(水) 13:30~14:15 ※内容は同じ 7月9日(土) 13:30~14:15, 7月15日(水) 10:45~11:30 ※内容は同じ</p> <p>「3ヒントクイズ」 3ヒントから謎を解き出そうクイズ。 新着はクイズの先生、★新着は謎★から出題するよ。 →謎のヒントから分かるはクイズ!</p> <p>7月9日(土) 10:45~11:30, 7月16日(土) 13:30~14:15 ※内容は同じ 7月9日(土) 13:30~14:15, 7月16日(土) 10:45~11:30 ※内容は同じ</p>	<p>7月13日(火) クラブ活動はじまります</p> <p>生き物クラブ: 10:45~11:30 生き物好き集まれ!</p> <p>イラストクラブ: 13:30~14:15 イラスト好き集まれ!</p>
9月	<p>SSRプログラム コラボ企画! 第1弾! With 歴史館利用 「イノリノカタチ」 誰はどんなときにもひびきますか? どうやってのびますか? つくってみよう! 「自分だけの祈りの形」</p> <p>第1回: 9月10日(日) 10:45~11:30, 13:30~14:15 ※平日と平日の両方は同じ 第2回: 9月16日(日) 10:45~11:30, 13:30~14:15 ※平日と平日の両方は同じ 第3回: 9月24日(日) 10:45~11:30, 13:30~14:15 ※平日と平日の両方は同じ ※開催: 毎週 隔週(土)イノリノカタチのプリントを配付</p> <p>「建設せよ!」 建設とは、大きいものを造ることを意味します。 建設するものは、新築1日分。 建設、新築で建設物を感じることはできるか!!!</p> <p>9月8日(水) 10:45~11:30, 9月15日(水) 13:30~14:15 ※内容は同じ</p>	<p>9月8日(水) イラストクラブ: 13:30~14:15 イラストを交流したり、おしほべりしめろくしよう!! みんなのイラストを展覧できるぞです</p> <p>9月29日(水) テーマメダカ 生き物クラブ: 10:45~11:30 生き物好き集まれ!</p> <p>企画部: 13:30~14:15 自分たちで新しいクラブ活動を企画してみませんか? 第1回目は、準備を話し合いましょう!</p>

八王子市立  
高尾山学園  
(東京都八王子市)

## 不登校特例校での取組

### 本校に通う児童・生徒像

- 1 : 学校で生きづらい** ⇒ **社会性・学力**  
 対人不安(友人、教員、集団)  
 学習不安、分布の両端 ソーシャルスキル誤学習
- 2 : 生活環境や家庭内環境** ⇒ **福祉的支援**  
 保護者力・養育力  
 親子&兄弟関係、家庭内不和、生活が不安定  
 ゲーム・ネット依存、昼夜逆転
- 3 : 本人の課題** ⇒ **医療的支援**  
 学習や運動が苦手(未学習)  
 情緒的不安 朝弱い 境界領域 強いこだわり

### 登校への支援策

#### 様々な登校刺激

楽しい・嬉しい・美味しい  
+ 安心感と知的好奇心

授業中の居場所(プレイルーム他)

わかる楽しさ/知的好奇心/ICT

様々な体験活動

充実した支援体制(TT、補助員他)

### 登校を安定させるには

#### 自己肯定感の醸成

わかった・できた・褒められた・協力しあえた

成長を実感できる様々な仕掛/仕組づくり

学習

体験

行事

家庭



ペーパータワー



イエローバレーン

### 18年間の活動を通して

#### 児童・生徒の変容

- ほとんどの児童・生徒が元気に(登校率は平均で70% 進学率は95%)
- 信頼できる友人や大人を獲得し学習に取り組む姿
- 自分に自信⇒高校大学でリーダーになる子も

#### 本校でのKFS

- 少人数に対して多くの教職員が関わる
- 時数軽減 何事も強制しない 学びと遊び
- 教職員のやる気 緩やかな転入(適応指導教室の併設)